沖縄県護国神社社報

うむい17号

社報「うむい」について

沖縄の言葉で「想い、願望、考え、所存」のことを「ウムィー」といい、戦争で亡くなっていった人達の思い、そして残された遺族、戦友達の想いを次の世代へと継承すべくつけられた名前。

日清戦争以後、敢然と国難に立ち向かっていった先人たちの尊い精神が、この「うむい」を通して末代まで受け継がれ、真に戦争の無い平和な世の中になるようにとの願いが込められている。

天皇皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭(12/23)

記事夢成（キジムナー）

昨年十一月の天皇皇后両陛下の沖縄県行幸啓は皇太子の時代を含め九度目のご訪問となった。両陛下は飛行機から降り立たれると、真っ先に糸満市の国立沖縄戦没者墓苑へ向かわれ拝礼されることは欠かされない。しかし、今回も当護国神社へのご参拝は叶わなかった▼ご滞在二日目の夜、両陛下奉迎の提灯パレードが国際通りに行列をなした。大勢の県民が集まり提灯と日の丸を振り万歳を叫んだ。両陛下ご宿泊のホテルが見える最終地点となったのが、我が護国神社が鎮座する奥武山であった。両陛下は奥武山に集まった七千名の県民に同じく提灯で御答礼下さった。これは、まさしく護国神社を遥拝して下さったことになりはしないか▼そもそも最終地点がこの場所になったのも当初の計画とは異なったものであった。この場所に決定したのはご英霊の想いに導かれたのではないだろうかと感じてならない。十八万のご英霊も万歳を叫びしばし御答礼に心をなごませていたことであろう▼この度の両陛下の沖縄ご訪問に際しては沿道奉迎に、なんと四万二千名の人が並んだ。豊かな海づくり大会の開催地となった糸満市だけでも一万四千名を数える。糸満市は昭和五十年にひめゆりの塔での「火炎ビン事件」が起こっただけに事件の悪夢を払拭するかのように大勢の人々が出迎えていた▼こうして、祖国復帰四十周年の昨年は沖縄にとって大変重要な節目の年を迎えたのだ。今年は祖国復帰四十一周年を迎える。政権も変わり少し光も射してきたか。この行方は、我々一人一人がご英霊に恥じることなきよう過ごすことにかかっているのではなかろうか。

沖縄県護国神社に幣饌料賜わる

会長　座喜味 和則

天皇・皇后両陛下は平成二十四年十一月十七日に「第三十二回全国豊かな海づくり大会」に御臨席のため沖縄県に行幸啓遊ばされました。特別機で那覇空港にご到着と同時に南部戦跡を訪れ国立沖縄戦没者墓苑でご供花ご参拝されました。那覇空港や南部戦跡の沿道には小雨降る中、沢山の県民が日の丸の小旗を持って歓迎申し上げました。両陛下も車の窓を開かれ手を振り続けられました。

私は午後五時、沖縄県護国神社会長としてご宿泊の沖縄ハーバービューホテルにて両陛下の思召しで侍従長川島裕様より沖縄県護国神社にお供えする「幣饌料」の下賜を受けました。誠に有難く感謝申し上げて退出しました。早速護国神社に戻り加治順人宮司代務者と共に神前にお供えしてご祭神にご奉告申し上げました。一ヵ月後の十二月二十三日に各市町村遺族会長や崇敬者のご参列のもとに「天皇・皇后両陛下幣饌料御下賜奉告祭並びに天長祭」を斎行致しました。次いで今年一月二十二日靖國神社のお手配で加治宮司代務者が宮内庁に参内し宮殿内記帳所で「幣饌料奉納御礼沖縄県護国神社」と記帳して参りました。更に当神社拝殿と社務所玄関との間の庭園に「天皇・皇后両陛下行幸啓記念」としての桜の木を植樹致しました。これらの行事を行って両陛下の大御心にお応え致しました。当神社への幣帛料・幣饌料の御下賜は昭和四十年十二月十九日の沖縄県護国神社本殿・拝殿再建遷座奉祝祭、昭和四十七年五月十五日の沖縄本土復帰記念奉祝祭、昭和五十年十月二十三日の終戦三十周年記念大祭、昭和六十年十月二十三日の終戦四十周年記念大祭、平成五年四月二十三日の第四十四回全国植樹祭沖縄行幸啓の際、平成七年十月二十三日の終戦五十周年記念大祭、平成十六年一月二十三日の国立劇場おきなわ開場行幸啓の際、平成十七年十月二十三日の終戦六十周年記念大祭に夫々拝受致しております。

幣饌料

誇るべき県民の宝

宮司　伊藤陽夫

平成二十五年正月の当神社への参詣者の数は、去年の二十六万人を超えました。これは、東京の靖國神社に匹敵する数であり、人口比率では当神社は全国でトップクラスではないかと言われています。沖縄県人口が約一四〇万、本島だけでは一二〇万強ですから十日までの参詣者を含むと住民の1／4の人々が参詣して下さっています。このような神社が沖縄県に存在すること自体、沖縄県民が誇るべき県民の宝ではないかと思われます。

あの大戦末期、徴用されたり急場の使い走りなどで巻きぞいになって銃弾の犠牲になり、壕の中では火炎鉋射器や手榴弾の餌食になるなど凄惨な死を遂げられた県民の数が、当時県人口の1／4即ち約八万人強にもおよびました。

奇しくも1／4という割合が先記の参詣者と付合しますが、それらの人々が軍人・兵士と共に英霊として当神社に祀られています。全国各県から沖縄へ出征戦死された軍人・兵士六六、九三一柱と、沖縄県出身の軍人兵士二八、一三六柱と共に沖縄県民全て併せて一七七、九一二柱がいまや当神社御本殿の御神体に鎮まって祀られているのです。

四十七都道府県で五十二社ある護国神社（県に二社三社〇社の県もある）には靖國神社と同じく明治維新への内戦以来の官軍兵士をはじめ日清・日露戦争以来のその県から出征戦没された軍人・兵士の英霊が祀られています。一般県民の戦没者が祀られているのは沖縄県護国神社が特例です。

終戦後間もなく〝戦傷病者戦没者遺族等援護法〟ができて沖縄戦戦没者に適用され、やがて昭和五十六年になって老若男女を問わず犠牲死された人々が戦闘協力者と認められました。当時の遺族連合会役員や関係役所の面々の涙ぐましい努力によるものでした。それらの名簿が厚生省から靖國神社に送られ、のちに霊璽簿となり当神社へもその写しが配備されました。昭和四十年に本社殿ができたとき鎮座祭典で沖縄全戦没者の御霊を招霊して御本殿の御神体に鎮まっていただきました。此のとき、一般県民の御霊たちが合祀されたのであります。

因みに古神道の「霊四魂説に従えば人間の生命は高天原（神界）の「直毘霊」が現世に「荒魂」として誕生し、死没しても白骨と共にアラミタマのまま残っていて遺族・関係者によって収納されて墓や祖霊舎（又は仏壇）に祀られることで「幸魂」となってはたらき、やがて公の靖國神社や護国神社（又は寺院）に祀られると、「和魂」としてはたらき、さらに昂まって「奇魂」となって国翔り天翔りして、高天原さながらの「直毘霊」にもどるといわれています。従って現在沖縄県護国神社御本殿の御神体に鎮まっている「和魂」も奇魂の働きなどしながら「直毘霊」というおびただしい霊が一体化し、「護国大神」として祀られています。

かつて美智子皇后さまが沖縄に来られたときに「海陸のいづへを知らず姿無きあまたの御霊国まもるらむ」と詠われたように軍人・兵士・一般県民の御霊はみな一体となり「護国大神」として一霊四魂のはたらきを以て現世を護って下さっています。

正月の社頭風景

さて、これら御祭神の「みたま」たちからすれば、今の県民は須く遺族に当るのではないでしょうか。古来祖霊信仰厚き沖縄県民にとっては、正月三ヶ日の沖縄県護国神社への参詣はシーミー（清明・祖霊供養）習俗の正月版ということではないでしょうか。三ヶ日の驚異的な数の秘密はここにあり、県民の宝として誇るべき理由もここにあると思います。

この誇り高き県民の宝、祖霊信仰のメッカともいうべき沖縄県護国神社へ、昨年一一月天皇・皇后両陛下から忝くも幣饌料（お供え）を賜りました。感慨ひとしおの会長挨拶文（右）に詳しい経緯が語られています。

護国英霊奉斎の沖縄県護国神社を背景にして一一月一八日夜、漫湖対岸に並んだ七千人の、両陛下奉迎提灯の行列に対してご宿泊所から御答礼の灯火が振られたと聞いております。

なんとその灯火は畏くも、「記事夢成」（二面）子言う如く、護国の英霊に手向けられていたことにもなりました。両陛下の御親拝が何のわだかまりもなく実現される日が着実に近づいております。

陳者、愚生昨年二月から一年余り不覚にも病臥し、御迷惑をかけ失礼の不義理に至りましたことを深くお詫び申し上げます。御蔭を以ちまして去る四月一日より復職を叶える事が出来ました。残余の任務に精励致す所存にて倍旧の御鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。　敬白

訃報――山城 政治氏 逝去

去る一月十一日当社監事の山城政治氏がお亡くなりになりました。享年九十。平成十五年より傷痍軍人会会長をお務めになられ、その他多方面で役員を歴任されました。平成二十年には旭日雙光章を受章されておられます。平成十六年六月より九年余り沖縄県護国神社の監事をお務め頂いており、平成二十三年に行われた両陛下の歌碑建立には会長をお務めの山城開発株の多大なる御尽力を頂きました。心から哀悼の意をお捧げ申し上げます。

天皇皇后両陛下 沖縄ご訪問

久米島に到着された両陛下

平成二十四年十一月十八日に沖縄県で行われた「第三十二回全国豊かな海づくり大会」に天皇皇后両陛下がご臨席のため、十七日～二十日までの間沖縄県を行幸啓されました。両陛下はご到着後先ず糸満市の国立沖縄戦没者墓苑にて献花を捧げご英霊をお慰めされました。また、ご滞在中は障害者施設や恩納村にある沖縄科学技術大学院大学などを始め様々なところをご視察、親謁されました。さらに景勝地、万座毛もご覧遊ばされ、最終日には沖縄本島から西へ百キロ離れた久米島へも、初めてご訪問されました。久米島では沖縄県海洋深層水研究所や「久米島紬」を興味深くご視察になられたそうです。両陛下がご移動される沿道には奉迎に多くの県民が集まり、四日間でなんと延べ四万二千名の方々がお出迎え申し上げました。これには陛下もお誕生日の会見で「多くの沖縄の人々に迎えられたことも心に残ることでした。」とおっしゃられております。

十八日の夕刻からは天皇陛下奉迎沖縄県実行委員会の主催による「奉迎提灯大パレード」が行われ、提灯を片手に「天皇陛下万歳」「天皇陛下ありがとうございます」を連呼しながら那覇市の国際通りから当社のある奥武山公園までをパレードしました。当初準備していた五千個の提灯は瞬く間に無くなり予想をはるかに上回る七千名ものの方々が行列行進に参加しました。両陛下がご宿泊のホテルが見える奥武山公園へ到着すると窓から両陛下の御答礼を賜りました。すると参加者の歓喜の声も一段と高まり七千名の国歌斉唱、に続き天皇陛下万歳を叫びました。御答礼は約五分間行われ、その後両陛下から「皆様の提灯とてもきれいでした。どうもありがとう。」とのお言葉を賜りました。前日は雨模様で心配されましたが、この日は天気にも恵まれ素晴らしい奉迎となりました。

奥武山公園から両陛下のホテルに向かって提灯を振る参加者

天皇陛下に於かれましては、この度の沖縄ご訪問の思い出を三首の御製（次頁参照）に残されております。その中の二首は今年の宮中歌会始に詠まれました。琉歌も一首詠まれておられます。地方行幸で三首詠まれることは大変珍しいことだそうで、沖縄を想われる両陛下の御心を感じ入ることができます。

幣饌料賜り 天長祭にて奉告祭

御到着の十一月十七日夕刻、両陛下がご宿泊の市内ホテルに於いて、沖縄県別表神社の波上宮と当社に両陛下より幣饌料を賜りました。授受は当社座喜味代表役員が参上し拝戴致しました。その後すぐに神社へ戻りご神前にお供えしご奉告申し上げました。そして十二月二十三日の天長祭に併せ役員総代崇敬者参列のもと、奉告祭を厳粛にご斎行申し上げました。祭典後、この度の奉迎活動の報告を社務所にて行い、携わった方々から感想を伺いました。両陛下のお車の後方から宮内庁の方を乗せたバスの運転を担当された当社崇敬者の安里清彦さん（浦添市在住）は「沿道にこんなに多くの方々がお迎えになる県は見たことがないということを宮内庁の方々がおっしゃっておりました。」とお話下さいました。

行幸啓記念に桜を植樹

年が明け一月二十二日幣饌料の御礼を申し上げに加治宮司代務者が皇居に参内しご記帳して参りました。

また、境内においては行幸啓記念の植樹が行われました。

天皇陛下御製

沖縄県訪問（平成二十四年十一月）

弾を避けあだんの陰にかくれしとふ戦の日々思ひ島の道行く

第三十二回全国豊かな海づくり大会

ちゆら海よ願て糸満の海にみーばいとたまん小魚放ち（琉歌）

歌会始 お題「立」（平成二十五年一月）

万座毛に昔をしのび巡り行けば彼方思納岳さやに立ちたり

秋晴れの中 第54回秋季例大祭斎行

十月二十三日、第五十四回秋季例大祭が役員総代を始め県内遺族約三百名のご参列のもと斎行されました。祭典前には前回の大祭で好評いただいた田場盛信さんによる民謡ショーで楽しんでいただきました。祭典は、国歌斉唱に続き黙とう、宮司代務者が祝詞を奏上申し上げ、代表役員座喜味会長、沖縄県遺族連合会照屋会長による祭文がそれぞれ捧げられました。MOA山月光輪花の献花を頂き「みたま慰めの舞」を奉奏し、お御霊をお慰め申し上げました。晴天に恵まれ厳粛の内に無事に斎了されました。また、天皇皇后両陛下行幸啓を控え大祭を含む十月二十二日～二十八日までの期間、社務所三階ロビーに於いて「天皇皇后両陛下行幸啓パネル展」を開催し、両陛下の慰霊の行幸啓を記録したDVDも上映されました。多くの来訪者が感動されておりました。

神職・役員参進

天皇皇后両陛下行幸啓記念パネル展

新嘗祭

十一月二十三日、新嘗祭が斎行されました。新嘗祭は二月十七日に斎行される豊穣を祈る祈年祭と対置に、稔りに感謝する収穫祭です。神前にはお米お酒を始め海の幸、山の幸、野菜や果物などを神前にお供へし、神様に饗して戴きます。本年は、最も重要なお米が、今もなお風評被害を受ける福島県の田村市遺族会（鈴木正一会長）からご奉納あり、福島の安全な新米をお供へさせて頂き致しました。東日本の一日も早い復興も合わせて祈念申し上げました。

バリアフリーの建築が評価 奨励賞受賞

十二月八日、平成二十四年度「沖縄県福祉のまちづくり賞奨励賞」に当神社社務所が選ばれました。高齢者や障害者等が快適かつ安全な生活を送ることが出来る町づくりの推進について優れた取組があると認められました。

遺族の子や孫が参加 節分祭

二月三日、沖縄県連合遺族会（照屋苗子会長）の提案により、節分祭に遺族の方々にご参列を呼びかけました。これは、遺族の子や孫の世代に護国神社を語り継ぐことを目的としており、当日は約七十名の遺族が集まりました。節分祭斎行のあとは神楽殿前において豆まきや福袋まきが行われました。さらに社務所へ移動し、子供たちはお菓子を食べながら紙芝居や指あそびなどで楽しみ、大人にはぶくぶく茶が振る舞われました。来年も遺族会と共催で節分祭を斎行していくこととなりました。

豆まき

初詣

平成二十五年正月は天候に恵まれ、初詣参拝者数が二十六万四千人という昨年をさらに上回る方々が訪れました。昨年から始まった参道に掲げられる献灯も増えて、境内を明るく照らし温かな光で参拝者をお迎えすることが出来ました。また、三が日期間中には境内神楽殿に於いて様々な団体の奉納芸能が行われ、参道に列をなす参拝者からも見学でき大変好評頂きました。六日の日曜日には当神社総代でもある那覇青年会議所の皆さんが境内にて餅つきを奉納下さり、参拝者にぜんざいを振る舞いました。準備した二〇〇食は瞬く間に終了、初めての試みでしたがこちらも大成功となりました。

野村流古典音楽保存会
一橋恒夫研究所の皆さんによる三線

那覇青年会議所による餅つき

社務日誌抄

平成二四年十月～平成二五年三月

10月

10日　なぐやけの碑慰霊祭参列
13日　装道礼法きもの学院
　　沖縄県許可連盟正式参拝
17日　**神嘗祭遥拝式**
17日　波上宮奉賛会秋大祭参列
19日　浮島神社例大祭参列
19日　沖宮例大祭参列
20日　沖縄神社例大祭参列
21日　安里八幡宮例大祭参列
21日　茶道裏千家淡交会
　　沖縄支部正式参拝
22日　**宵宮祭**
23日　**第54回秋季例大祭**
24日　広島県遺族会一九名
　　正式参拝
25日　北海道連合遺族会
　　三八名正式参拝
25日　東京都遺族連合会
　　四〇名正式参拝
25日　仲宗根理事・宮司代務者
　　福岡県護国神社へ出張
27日　生天光神明宮例大祭参列
29日　普天満宮例大祭参列
30日　群馬県遺族の会
　　三五名正式参拝
31日　群馬の塔慰霊祭参列

11月

1日　建て直そう日本女性塾
　　正式参拝
2日　表千家不白流沖縄県
　　支部正式参拝
3日　**明治祭遥拝式**
4日　因伯の塔慰霊祭奉仕
5日　ひむかいの塔追悼式
　　参列団四四名正式参拝
5日　山口県遺族連盟
　　三〇名正式参拝
6日　熊本県遺族連合会
　　三一名正式参拝
6日　はがくれの塔慰霊団
　　参拝団八〇名正式参拝
6日　山形県遺族会自由参拝
6日　ひむかいの塔慰霊祭参列
6日　防長英霊の塔慰霊祭参列
7日　八光山二三名正式参拝
7日　靖國神社職員研修旅行
　　第一班正式参拝
8日　沖縄甲斐の塔慰霊巡拝団
　　六〇名正式参拝
8日　英霊にこたえる会
　　沖縄県本部正式参拝
8日　千葉県遺族会
　　三〇名正式参拝
9日　石川県遺族連合会
　　五二名正式参拝
10日　世持神社例大祭参列
10日　長崎県戦没者慰霊奉賛会
　　七五名正式参拝
10日　長崎の塔慰霊祭参列
10日　茶道裏千家淡交会
　　沖縄支部正式参拝
11日　青森県遺族連合会
　　二五名正式参拝
11日　みちのくの塔慰霊祭参列
12日　島根県遺族連合会
　　二二名正式参拝
12日　靖國神社職員研修旅行
　　第二班正式参拝
12日　岩手県遺族連合会
　　三五名正式参拝
13日　静霊奉賛会七〇名
　　正式参拝
13日　静岡の塔慰霊祭参列
14日　富山県南方戦没者
　　沖縄慰霊塔奉賛会
　　五一名正式参拝
14日　新潟県遺族会
　　二七名正式参拝
14日　徳島県遺族会
　　二〇名正式参拝
15日　奈良県遺族会
　　一九名正式参拝
16日　日本女性の会
　　荒木事務局長正式参拝
17日　天皇陛下幣饌料伝達式
　　（沖縄ハーバービューホテル
　　クラウンプラザにて）
　　会長授受・奉告式
18日　沖縄県防衛を考える会
　　正式参拝
18日　日本会議椛島事務総長
　　正式参拝
18日　福島県遺族会
19日　高知県遺族会
　　四〇名正式参拝
19日　ふくしまの塔慰霊祭奉仕
19日　土佐の塔慰霊祭奉仕・参列
19日　紀乃国の塔慰霊祭参列
19日　茨城県遺族連合会
　　四二名正式参拝
20日　岐阜県遺族会
　　四三名正式参拝
21日　和歌山県遺族連合会
　　八名正式参拝
22日　岡山県遺族連盟
　　五〇名正式参拝
22日　つのだ☆ひろ様正式参拝
23日　**新嘗祭**
23日　末吉宮例大祭参列
24日　埼玉県遺族連合会
　　六五名正式参拝
25日　神奈川県遺族会
　　五〇名正式参拝
28日　沖縄県遺族連合会女性部
　　正式参拝

12月

4日　明治神宮崇敬會正式参拝
5日　九州地区護國神社宮司会
　　（佐賀県）宮司代務者出張
9日　ことだま研究会正式参拝
10日　建て直そう日本女性塾
　　沖縄県支部正式参拝
15日　茅原書藝會正式参拝
23日　**天皇皇后両陛下幣饌料**
　　御下賜奉告祭並びに
　　天長祭
26日　**神符守札清祓並びに**
　　助勤者安全祈願祭
31日　**大祓式**
　　古神札焼納祭
　　除夜祭

1月

1日　**歳旦祭**
3日　**元始祭**
20日　識名宮仮遷座祭助勤
19日　新年祭直会
　　（パシフィックホテル）
26日　茅原書藝會入選入賞
　　祈願祭

2月

3日　**節分祭**
3日　茶道表千家同門会
　　沖縄県支部正式参拝
5日　修養団捧誠会
6日　長野県遺族会
　　四五名正式参拝
7日　京都の塔慰霊祭参列
8日　京都の塔奉賛会
　　三一名正式参拝
8日　日本和裁士会針祭
9日　NPO TOSS正式参拝
11日　**紀元祭**
13日　JYMA正式参拝
14～15日　全國護國神社會
　　時局対策研修会
　　（靖國神社）
16日　高良権禰宜出張
16日　修養団沖縄がじまる会
　　SYDボランティア
　　友の会正式参拝
16日　茶道裏千家沖縄支部
　　正式参拝
17日　SYD慰霊祭奉仕
　　遺骨収集参加
17日　県遺族連合会
　　遺骨収集参加
17日　**祈年祭**
18～19日　九州地区護國神社
　　職員研修会（佐賀県）
19日　木村権禰宜出張
19日　山形の塔慰霊団
　　四二名正式参拝
20日　山形の塔慰霊祭参列
21日　なにわの塔慰霊祭参列
25日　神道政治連盟奈良県本部
　　正式参拝

3月

3日　FC琉球必勝祈願
4日　前田高地平和の碑
　　慰霊祭奉仕
5日～7日　神道青年九州地区
　　協議会研修会（宮古島）
　　木村権禰宜出張
6日　北海道沖縄会
　　九名正式参拝
6日　全國護國神社會定例総会
　　（靖國神社）
　　宮司代務者出張
8日　表千家同門会
　　沖縄県支部正式参拝
16日　天使のほほえみ正式参拝
20日　**春季皇霊祭遥拝式**
20日　沖縄ゼミナール
　　英霊顕彰祭
28日　平成二四年度第三回
　　責任役員会
30日　那覇市文化協会
　　茶道部正式参拝

宮司代務者のお話を聞く長野県遺族会の皆様(2/6)

FC琉球必勝祈願(3/3)

正月献灯奉納者ご芳名

（順不同敬称略）

●企業・団体●㈲沖セレモニー社・㈱屋我商会・㈲西原農園・大鏡建設㈱・㈱国際ビル産業・㈲ビーンズ広告社・㈲新長堂土木・㈱アースティック那覇・㈱ゼーゲンカンパニー・㈱アニヤデンキ・ヤシマ工業㈱・國和設備工業㈱・日本文化経済学院・㈱伊禮産業・㈱山内産業・㈱阿部・㈲西紀・たけや旗染店・修養団捧誠会沖縄県支部・日本会議沖縄県本部・㈲福岡奉製・㈱ビジネスランド・㈱南都・南都物産㈱・拓伸会・沖縄ハーバービューホテルクラウンプラザ・㈱東部電気土木・街クリーン㈱・三栄工業㈱・㈲仲宗根商事・㈱新建・グリーン産商㈱・トーマ産業㈱・㈳那覇青年会議所・那覇空港ゴルフ練習場㈱・㈱マルゼン・㈲エーツーサイン・産経新聞社那覇支局・産経新聞沖縄正論友の会・ABC沖縄放送宣伝社・㈰三眞運輸・アスク沖縄㈱・㈱JAおきなわAコープ・自主憲法制定沖縄会議・アサヒオリオンカルピス飲料㈱・㈱シンテック・㈲わかまつどう製菓・スーパーホテル那覇・ヤシマ工業㈱安全衛生協力会・さかえ労務管理事務所・㈱神路社・前原産業・㈜阿含宗沖縄道場・㈱三宝社・表千家不白流沖縄県支部・修養団沖縄がじまる会・シンガポール店ミミガー・㈲アイアム・㈱井上商店・沖縄ガス㈱・真幸組㈱・大晋建設㈱・沖縄コカ・コーラボトリング㈱・自家焙煎くれ～る珈琲・天の舞・啓子メンタルクリニック・沖縄特定免税店㈱・㈱オカノ・㈲沖縄式典プランニング・新日本工芸㈱・㈱おきさん・㈱縁・ヒルマ会・まぁさん堂・まぁさん堂有志会・ダスキン具志支店・㈱西建設・㈲良組・㈶沖縄県傷痍軍人会・具志堅グループ琉鵬会・㈲設計集団閃・㈲丸徳ガス産業・積徳高等女学校ふじ同窓会・㈱近代美術・㈱うるま印刷・具志堅製菓所・オリオンビール㈱・文進印刷㈱・装道礼法きもの学院沖縄県許可連盟・㈲フォートプランサービス・三協電気工事㈱・橋印章・新報警備保障総合ビル管理㈱・㈱企画T・㈱トラステック・沖縄菱電ビルシステム㈱・オーシロ電化オーシロマンゴー園・㈱仲本工業・㈱金城組・鏡原クリーニング店・㈲宇根内装・宮里種苗・茅原書藝會（一社）沖縄海友会・津波設備・まんが喫茶ジャンプ・㈲百名石油商会・ホテルゆがふいんおきなわ・㈲光陽ビルサービス・むすび会・社会福祉法人わかば友の会・わかば保育園・㈱京和土建・南友会・㈲ミナミ商事・英霊にこたえる会沖縄県本部・フォートプラザ・㈲恩納アルミ工業・シンバホールディングス㈱・㈱あんしん・前原建装・アラカキ建設・㈱オキジム・㈲新垣産業・沖縄三菱電機販売㈱・㈳茶道裏千家淡交会沖縄支部・裏千家茶道教室・沖縄鶏卵販売㈱・（一社）日本和裁士会沖縄県支部・㈱大八産業・㈱琉球銀行・㈲たけ事務・山城開発㈱・日本幼児体育学会・子どもヨーガ研究所・沖宮・明王山普門寺・沖縄県赤十字献血センター・㈱長谷場商会・沖縄県葬祭業事業協同組合・㈱沖縄銀行・総合金物高良・RBCiラジオ・炭火焼鳥沖縄和顔・炭火焼鳥まるどりや

●**遺族会**●㈶沖縄県遺族連合会・小禄遺族会・豊見城市遺族会・嘉手納町遺族会・座間味村遺族会・国頭村遺族会・与那原町遺族会・恩納村遺族会・沖縄市遺族会コザ支部・首里遺族会・那覇遺族会・久米島町遺族会・読谷村遺族会・真和志遺族会・具志川遺族会・玉城遺族会・与那城遺族会・石川遺族会

●**個人**●足立信一・楊少文・徳門努・比嘉良雄・伊藤玲子・安里清彦・伊波前良・崎濱秀雄・渡慶次広・宮里邦・大城宏予・坂田達昌・前泊政男・前泊正基・前原良一・池宮喜秀・島仲彌・新城進・田場聡・伊波靖弘・國吉昇・山城政治・玉城喜広・稲嶺大樹・座喜味和則・大城竹明・町田宏・新城啓子・比嘉憲太郎・長嶺克・宮里洋子・友利日出夫・川満定行・米須清二・鶴田幸恵・上原栄徳・玉城幸三郎・野底友子・石原昌昭・上間清活・嘉数吉雄・垣花力男・中村哲・宮里為教・島袋林正・上原直也・町田宗鳳・日出克・伊藤陽夫・加治順人・辻政子・一橋勝巳・前原敏彦

ありがとうございました。

主な祭典のご案内

○6月23日　正午　沖縄全戦没者慰霊祭

○8月15日　正午　みたま祭り

○10月23日　午後1時 第55回秋季例大祭

どなたでもご参列できます。

永代命日慰霊祭御供奉納者御芳名（順不同）

愛知県刈谷市　丹村　要二　様
奈良県天理市　中野　善史　様
三重県津市　林　宣昭　様
岐阜県下呂市　熊崎　つや　様
北海道足寄郡　大竹口重幸　様
神奈川県横浜市　久保井淑子　様
愛知県犬山市　吉野　幸雄　様
沖縄県那覇市　高江洲愛子　様
北海道沙流郡　島瀬　一郎　様
北海道札幌市　島瀬　展成　様
順一　様
神奈川県川崎市　石川　曠　様
大阪府池田市　島村美哉子　様
千葉県柏市　早坂　正子　様
沖縄県那覇市　与儀　シゲ　様
愛知県名古屋市　近藤　義文　様
岐阜県岐阜市　岡田きよ子　様
北海道日高郡　岡村　弘　様

玉串料奉納者御芳名（社務日誌掲載以外・順不同）

福島県郡山市　高橋キクミ　様
北海道岩見沢市　五十嵐幸造　様
北海道磯谷郡　下條　司　様
念法眞教　若林　良勝　様
群馬県甘楽郡　並木　進　様
宮崎縣護國神社　宮司　杉田　秀清　様
佐賀県護国神社　宮司　宮田　豊　様
沖縄県那覇市　山宮　千代　様
山梨県大月市　渡辺　泰　様
長野県松本市　堀内　淳次　様
青森縣護國神社　社司　齊藤　毅　様
出雲大社教　管長　千家　達彦　様
岩手護国神社　宮司　藤原　隆磨　様
静岡縣護國神社　宮司　二橋　正彦　様
奈良県傷痍軍人会　佐々木真太郎　様
東京都練馬区　山城　政治　様
沖縄県糸満市　阿波根昌信　様
沖縄県那覇市　中澤　恵子　様
(有)光陽ビルサービス　當間彦太郎　様
沖縄県那覇市　(宗)普明会教団　長屋　康　様
修養団捧誠会　長野県神社廳　小口　和久　様
長野県諏訪市　京都府京丹後市　吉岡　明男　様
日本会議 事務総長　椛島　有三　様
大分縣護國神社　宮司　小野日隆　様
広島護國神社　山本　善信　様
大阪府摂津市　神奈川県横浜市　原田　房子　様
山形縣神社廳　山形県神社庁西置賜支部　宮司　乾　光宏　様
保利神社　葛城一言主神社　宮司　伊藤　典久　様
広島経済大学　教授　岡本　貞雄　様
茨城県護国神社　宮司　佐藤　昭典　様
北海道千歳市　谷村　征利　様
茶道裏千家沖縄支部　崎間社中　崎間　宗芙　様
沖縄県那覇市　秦　宗文　様
長濱企業グループ　会長　長濱　文子　様
靖國神社　大野　義彦　様
栃木県護國神社　宮司　稲　寿　様
北海道河東郡　高橋　仁　様
(株)日華　会長　宇都宮鐵彦　様
(株)日華　社長　宇都宮秀仁　様
高知県吾川郡　土居　豊榮　様
岐阜県岐阜市　玉田　充　様
和歌山県遺族連合会　会長　荒堀　清隆　様
和歌山県有田郡　西本とよ子　様
埼玉県大宮市　吉澤　吉治　様
石川県鳳珠郡　吉岡源兵衛　様
石川県小松市　阿戸　信子　様
壯一郎　様
北海道札幌市　坂井　武博　様
釉子　様
徳島県那賀郡　仁木　壽一　様
富山県富山市　安守　清剛　様

物品奉納者御芳名

神酒　田村　君江　様
米　下條　順一　様
柿　長浦　利美　様
鮮魚　居酒屋「翔」　様
蘭　蘭フラワー　様
泡盛　久米島の久米仙　様
鶏卵　沖縄鶏卵販売(株)　様
看板幕　アサヒオリオン
カルピス飲料(株)　様
国旗　たけや旗染店　様
下仁田ねぎ　猪野　幸子　様
正面幕・樽酒　ジーマ(株)　様
ジーマックス(株)　様
生け花　MOA山月光輪花　様
写真　フォートプラザ　様
式年遷宮絵馬　神路社　様

寄贈図書

「靖國神社献詠歌集」　靖國神社　様
「のりと集」　保利神社　宮司　乾　充宏　様

辞令

宮司　伊藤　陽夫
当神社規則及職員服務規程に基づき休職を解く
平成二十五年三月三十一日付
襴宜　加治　順人
伊藤宮司の復職に伴い当神社規則に基づき宮司代務者を解く
平成二十五年三月三十一日付

沖縄県護国神社新職員紹介

巫女　屋宜　亜希子

この度、職員として奉仕させて頂く事になりました。新しく学ぶことも多く、不安になる時もありますが、先輩方のご指導もあり充実した日々を送らせて頂いております。宜しくお願い致します。

編集後記

慶賀すべき平成二十四年を終え、早くも平成二十五年初夏を迎えようとしておりますが、振り返ってみても両陛下の奉迎提灯パレードに七千名の参加は見事でした。この一大行事を沖縄の新聞二社は一切報じませんでした。本当に残念な沖縄のマスコミです。公共放送でも報道されなかったので、県内外の皆様にお知りおき頂きたく本号うむいを以て沖縄行幸啓の出来事をお届けいたしました。宮司も復職し職員一同更なる神明奉仕に邁進して参ります。

発　行　平成二十五年四月一日
発行所　沖縄県護国神社
〒九〇〇－〇〇二六
沖縄県那覇市奥武山町四四番地
TEL　〇九八－八五七－二七九八
FAX　〇九八－八五七－七九二七
HP　www.okinawa-gokoku.jp/
編集担当　前原　万岐
印刷所　株式会社近代美術